

# 河井継之助の生涯



長岡の墓



只見町の墓

河井継之助(かわいつぐのすけ)長岡藩(7万4千石)家老上席・軍事総督

年齢は数え歳

- ・陽明学(藤樹学)を学び、不当な取り立てを止め農民を救済、河税や株の特権を止め商業を発展、華美の禁止、藩士の禄高是正、賭博禁止、教育改革、洋式兵制をする
  - ・米相場、為替の知識もあり、経済観念があった
  - ・「ミニエー銃」や手動機関銃「ガトリング砲」を横浜のファーブル・ブランドから購入
  - ・新政府軍約2万人に対し、同盟軍は8千人で抵抗、7月29日長岡城落城
  - ・良寛和尚とも親交があった (参考 新潟県人物小伝「河井継之助」)
  - ・1827年(文政10)1月1日生、藩士河井代右衛門長男。名を秋義、蒼龍窟(そうりゅうくつ)と号。藩校崇徳館に通う。24歳で榎野(なぎの)すが(16歳)と結婚。
  - ・1852年(嘉永5)江戸に游学、佐久間象山に学び、蘭学と西洋砲術をぶ。
  - ・1853年、ペリー来航により幕府老中で藩主牧野忠雅(ただまさ)に改革を進言、藩の評定方隋役となるが、上司のパワハラで退任。翌1857年(安政4)復帰し外様吟味役となる。
  - ・1858年、藩を出て、岡山県備中松山藩の陽明学者、山田方谷(ほうこく)に学ぶ。
  - ・1867年(慶応3)12月、藩士一軒に一丁のミニエー銃を配る。
  - ・1868年(慶応4)1月、鳥羽伏見の戦いにより、藩主牧野忠訓とともに大坂を出て、江戸に入る。
  - ・3月15日、上越に北陸道鎮撫使が到着越後11藩へ協力命令、奥羽越列藩同盟からも加盟要請、いずれも断り中立を守る。北陸道先鋒総督府参謀山縣有朋、黒田清隆が進軍し4月27日小千谷占領。
  - ・5月2日、小千谷市の慈眼寺(じげんじ)で、岩村精一郎(24歳)と会談するが決裂。徹底抗戦を宣言、長岡藩は奥羽越列藩同盟に加盟した。
  - ・5月10日、長岡藩は開戦し、同盟軍とともに長岡南の榎峠、朝日山を奪取。
  - ・5月19日、柏崎から進軍した新政府軍は、信濃川を渡り城下に進軍、継之助はガトリング砲で応戦するも長岡城は落城した。
  - ・7月25日未明、長岡北の八丁沖を進み長岡城奪還に成功するが、継之助は左足に銃撃を受け重傷、新発田藩の裏切りで7月29日、長岡城は再び陥落。長岡藩士と住民は、会津の只見を目指した。
- 「八十里 腰抜け武士の 超す峠」
- 峠途中で詠む。八十里峠は保科正之以前の一里6.54km(80里は52.3km)に名づけられたもの。
- ・8月5日、八十里峠の山中で一泊、只見叶津(かのうつ)番所に入り、目明し清吉宅に七日滞在、旧幕府の医官松本良順が診察するも手遅れだった。この時、牛肉を食べている。
  - ・8月12日、塩沢の医者矢沢宗益に移り、8月16日午後8時頃、42歳で死去。遺言により河原で火葬、遺骨は若松建福寺に運ばれ小田山中腹に埋葬、松平容保参列のもと葬儀された。建福寺は西軍の進行で焼失、明治2年9月、遺骨は従僕だった松蔵らが長岡の栄涼寺墓地に運んだ。
  - ・9月8日(現在の10月23日)、若松の飯寺で山本帯刀隊250名の内、43名が捕まり処刑される。
  - ・9月23日、長岡藩降伏。この戦いで長岡藩士約340名、領民約100名死去、城下は焼失。

